

総合的な学習におけるホームページ外部評価システムの試み

Web-page Assessment System to Get Outside Opinions for the Period of Integrated Studies

○中川 齊史
Hitoshi NAKAGAWA

堀田 龍也
Tatsuya HORITA

池田町立池田小学校
Ikeda Elementary School, Tokushima

静岡大学情報学部
Faculty of Information, Shizuoka University

[概要] 総合的な学習に時間の実施が各地で広まり、自分たちの調べたことをホームページ形式にまとめ、発信する学校が増えてきた。ところが実際問題として、小学生が調べたことをホームページにアップしても、不特定多数の人がそのページを見て、評価を子ども達に返していくようなことはなかなかできておらず、児童の学習意欲の減退につながっている。

そこで、子ども達が作り発信したページを意識的に見て、それらの評価を確実に返すような組織をインターネット上で展開し、総合的な学習の時間の評価として利用した実践を行ったので報告する。

[キーワード]

評価システム インターネット ホームページ 総合的な学習の時間 外部人材の活用

1 はじめに

総合的な学習の時間では、子ども達はいろいろなテーマに沿って課題追求する。自分たちが苦労して調べたり、実験したことを他の人にも知ってもらいたいという思いを持っている。インターネットがない時代では、そのような学習の結果を見ず知らずの遠いところの人に見てもらおうようなことは、不可能に近かった。まして、そのできばえを評価してもらおうようなことは無理であった。

ところが学校現場をはじめ、各家庭へのインターネットの普及と、総合的な学習の推進によって、担任のみが子ども達の学習を評価する時代は終わろうとしている。例えば、他のクラスの子ども達に聞いてもらったり、違う学年の子ども達に聞いてもらったりして幅広い評価をもらうようになってきた。

そして、学校の中から外へと、評価をしてもらう対象が広まってきた。この実践で

は、三加茂町立三庄小学校6年生43名が行った総合的な学習の実践において、学習の成果をホームページにアップし、意識的に集めたいわば"評価ボランティア集団"によって見てもらい、評価を言葉で返してもらうことにより、子ども達の意識について述べる。

2 実践の流れ

- ・43名が「炭」をテーマに約30の小グループを構成し、調べ学習を行った。
- ・調べたことをhtml形式でまとめた。
- ・学校のホームページにアップした。
- ・評価ボランティア組織へアナウンスした。
- ・数日後、評価が回収された。
- ・それぞれの意見を子ども達に返した。
- ・それを見た子ども達の意識をアンケートした。

3 ボランティア組織の構成

iMi (イミ) ネットという、インター

ネット上の民間情報調査組織を利用し、1週間の間に指定したホームページを見てもらい、感想などをメールにて回答してもらった。

4 具体的調査概要

・調査目的

徳島県の三庄小学校が行っている炭学習のホームページに関する感想を外部人材に聞き、それを子どもにフィードバックすることにより、子どもの継続への意欲や学習そのものへの意欲を高めるなどの教育的効果を狙う。

・調査方法

i M i ネットの電子メールアンケートを利用

指定したホームページを見て、アンケー

トに回答してもらう。

・調査期間

2000年1月13日～1月18日 午前9時

・回答率

発信数 = 237人

回答者数 = 95人

回答率 = 40%

・調査対象

小学生、中学生の子供がいる既婚者

・調査内容

- (1) ホームページを見て興味をもったページ
- (2) 特定ページへの意見・感想・質問など
- (3) 自身の炭に関する経験など
- (4) 炭学習ホームページの作り方への感想・意見
- (5) 三庄小学校の児童へのメッセージ

5 外部評価システムの回答者属性

| 性別 | 人数 | 比率 |
|----|----|------|
| 男性 | 43 | 45% |
| 女性 | 52 | 55% |
| 合計 | 95 | 100% |

| 年齢 | 人数 | 比率 |
|--------|----|------|
| 20-29歳 | 6 | 6% |
| 30-39歳 | 54 | 57% |
| 40-49歳 | 34 | 36% |
| 50歳以上 | 1 | 1% |
| 合計 | 95 | 100% |

| 職業 | 人数 | 比率 |
|-----------|----|------|
| 会社員 | 39 | 41% |
| 専門職 | 3 | 3% |
| 公務員 | 3 | 3% |
| 教職 | 0 | 0% |
| 自営業 | 7 | 7% |
| 学生 | 0 | 0% |
| パート・アルバイト | 14 | 15% |
| 専業主婦 | 28 | 30% |
| 無職 | 0 | 0% |
| その他 | 1 | 1% |
| 合計 | 95 | 100% |

| 居住地 | 人数 | 比率 |
|--------|----|------|
| 北海道・東北 | 6 | 6% |
| 関東 | 43 | 45% |
| 北陸 | 1 | 1% |
| 信越 | 1 | 1% |
| 東海 | 12 | 13% |
| 近畿 | 17 | 18% |
| 中国 | 5 | 5% |
| 四国 | 2 | 2% |
| 九州・沖縄 | 8 | 8% |
| 合計 | 95 | 100% |

通常どんなにがんばって学校が調べ学習をしても、これほど多彩な地域の多彩な職業の人に直接ホームページを見てもらうのはむずかしいが、このような外部評価システムを利用することで、さまざまな評価を直接子ども達に届けることができた。

6 考察

図1と図2では、ほめてくれてたり、厳しい意見に対して、

★内容

★ホームページの作り方、見せ方

という2つの視点で子ども達の感想を比較してみた。ほめてくれている意見に対しては、うれしいというのがほとんどであるが、内容であっても、ホームページの作り方であっても、それほど回答の差は見られないところ

が、厳しい意見に対しては、内容について指摘されたことより、ホームページについて指摘された方が、やる気がダウンすると答えた数は少なく、むしろ好意的にとらえている数字が増えている。つまり、子ども達にとって直接内容に関わる部分ではあまり厳しい意見をもらうのはつらいようである。

しかし、厳しい意見はいやではあるが、それをありがたいと感じている子どもも半数近くいるようである。

図1 ほめてくれたり、はげましてくれている意見に対して

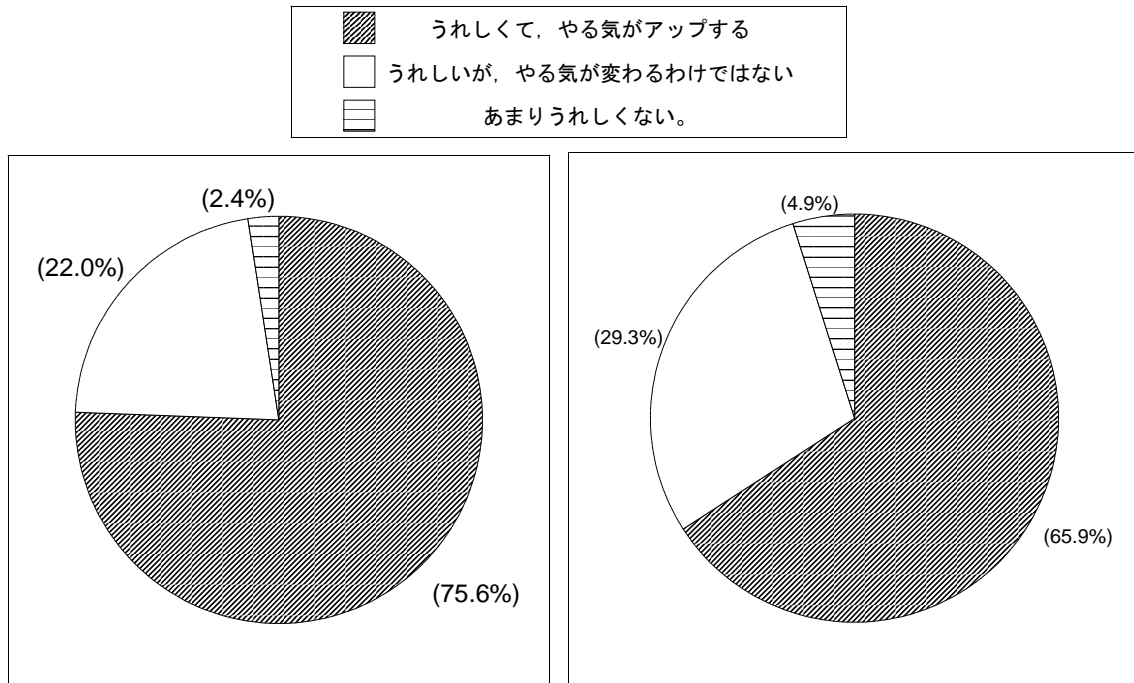


図1-1 内容をほめてくれている意見をもらって、どう思うか

図1-2 ホームページの作り方をほめてくれている意見をもらって、どう思うか

図2 厳しい指摘や意見に対して

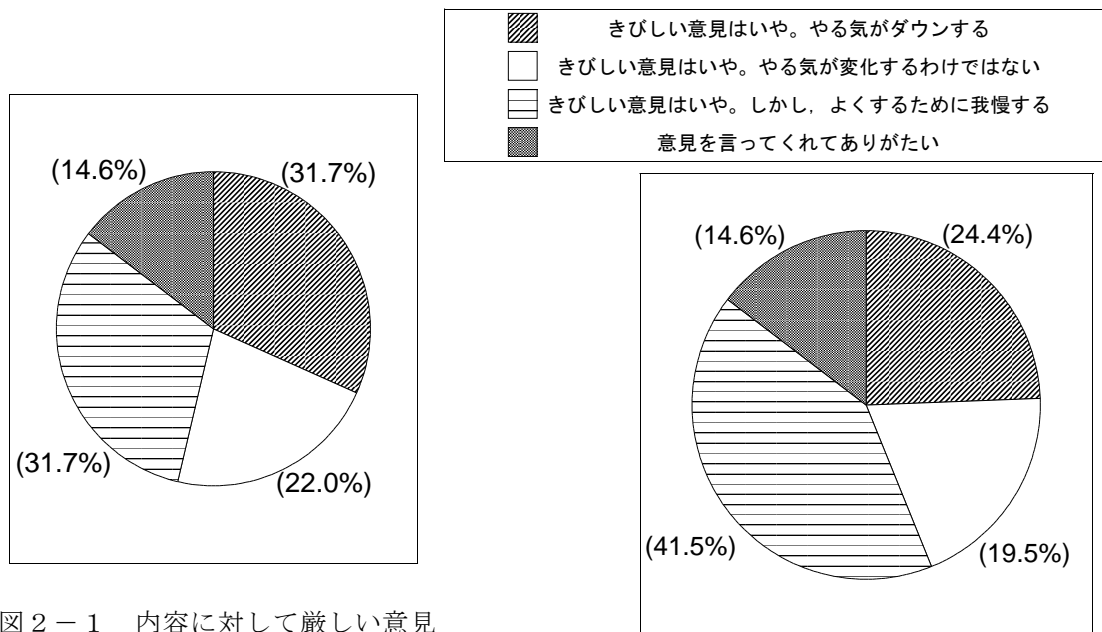


図2-1 内容に対して厳しい意見をもらって、どう思うか

図2-2 ホームページの作り方について厳しい意見をもらって、どう思うか

図3 外部評価システムに対しての子ども達の感想（その1）

（※複数回答）

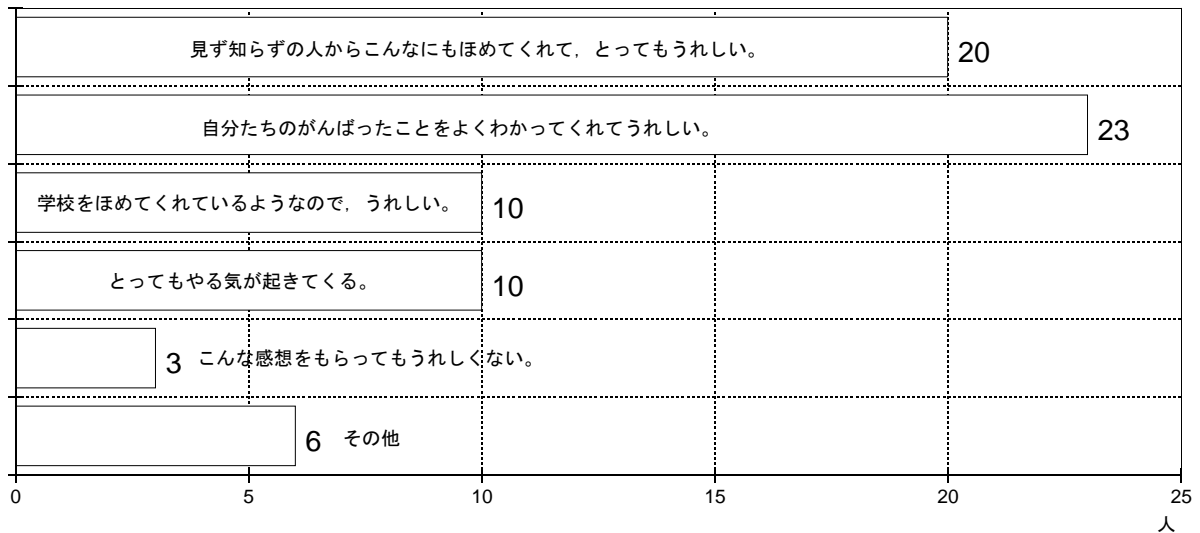
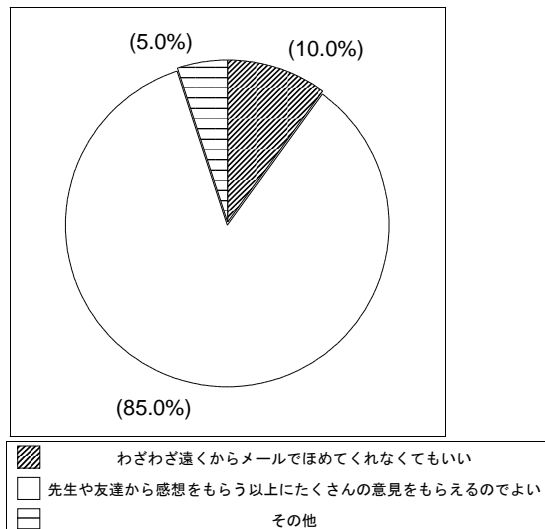


図4 外部評価システムに対しての感想（その2）

図3と図4では、このような学習のまとめを、ホームページを通じて見てもらうための仕組みについて、どう感じているかを質問したところ、ほとんどの子ども達が、いろいろな立場の人から意見をもらえることを喜んでいる。特に、先生や友だち以外からの意見をもらえることを好意的に見ている数字が多かった。



7 おわりに

せっかくホームページにまとめたデータも、日々増え続けるホームページの存在の中で、偶然見てくれるという可能性は下がりつつある。子ども達の学習を教室や学校、地域だけで終わらせることのないような、ホームページの評価システムは、これから必要となってくるのではないだろうか。

総合的な学習の時間の評価には、自己評価の部分と、教師以外からの評価の両方が必要だとわたしは考える。そのためにも、インターネットを使うことで、離れたところでの評価の可能性が現実のものとなってくるべきである。

そして、このような子ども達の学習を評

価してくれるネットボランティアのような存在も、ますます必要となってくるのではないだろうか。現在学校現場で試みられている、外部人材の登用や専門家のメールボランティアなどの組織を広げる形で、評価のための外部人材という組織も必要であると考えます。

8 謝辞

この外部評価システムのiMiネットの母体である富士通株式会社 政策推進本部 通信企画部 大久保氏をはじめ関連団体に、全面的な協力をいただきました。このご協力に対し、深く感謝いたします。